

# 保科晶の雑記帳

2005





と、いきたいものだと思います。

昨年は大荒れの一年でした。申年は荒れると言い伝えがあると新聞で読みましたがまさしく！

インドネシアの大津波にはこれは「ノアの方舟じゃないか！」と。

なみが30mもひく、（海が割れたことじゃないか）

やがて大波がやってきてのみ尽くす。うちあげられた舟がアララト山のうえに残される。

舟には神に選ばれしもののみ・・・

地球も一つの生き物で私たちはその上に乗っかって生きている。

もうすぐ阪神大震災10年が来る。時々体がふ～っとゆれるような感覚をおぼえるときがある。







[家内安全五穀豊穰](#) [2005-01-02 22:45 by guminomi2]



## 同窓会

---

昔の名前で呼ばれました。

時の流れが身体の上にあります。

2年後の再会を約して別れました。

帰り道、ネオンのながれを撮りました。



[同窓会](#) [2005-01-10 23:08 by guminomi2]



## えべっさん

---

今日、残りえびすに行って来た。

初詣とおなじくなんとなく正月のひとつの行事である。

ついでといっはなんだが、たくさんの神様の出張所にもお参りする。10円で「家内安全、五穀豊穡」とはあつかましいかな、と思いつつ。もっとも本殿は100円である。

マグロのほうにもご縁がありますようにと5円を貼り付けたが、「おいら、もういいよ」と振り落とされてしまった。

今年は「くまで」にするかな、と思っていたのに何の気なしに「笹」を買ってしまった。

真昼間行ったので、（いつものことだが）露店の剥げた垂れ幕がちょっとわびしい。

儀式は大嫌いだが、行事は好きで

体中にイカ焼きのにおいをくっつけて帰ってきた。

バスを降りると冷気がしんと入り込んできた。







[えべっさん](#) [2005-01-11 23:18 by guminomi2]



## ポール・ギャリコに

---

夢中。

名前だけは前から知っていたけれど、  
2,3年前矢川澄子さん訳の「雪のひとひら」を知り、

ついで「スノーグース」（矢川澄子訳）、

「幽霊が多すぎる」（山田蘭訳）、

そして「ジェニイ」（古沢安二郎訳）。

その昔、本の中にのみ遊びをみていた自分になる。

“なんてうまいんだろう！”

外国語がまるっきりだめなので、翻訳者がとても大事。

ぼちぼち、全部読もうかな。



S・J・ローザンも翻訳を待ってる作家。

景色を書くのがうまくてニューヨークの下町を  
歩いている気分になる。

ギャリコもローザンも目線が好きなんだなあ。



今日、2005年1月17日

---

震災10年目。

書いてゆけばいろいろあるが、  
たんすを背負っても怪我もせず、身内に怪我もなければ  
TVに涙を流しても、  
真に人を思いやることは出来るのだろうか。

今度・・・という恐怖ともいえる感情は  
心の底に澱のように残ってしまったが、  
そのわりには避難リュックの用意もしていない。







[今日、2005年1月17日](#) [2005-01-17 23:07 by guminomi2]



## どうにも関係のないこと

---

朝のことである。

イギリスのチャールズ皇太子が長年の恋の到達点として結婚するそうなの。となりで「連れ合い」が「すごいことだ、ものすごいプレッシャーを跳ね除けて、オレには到底できない、と盛んに感心している。

貴族というのはすごいものだ。イギリスの王家といえば貴族の頂点みたいなものでしょう。後継ぎもきちんとつくり、好きな人と結婚する、したたかだなあ、チャールズさんもエリザベスさんも。真実は知る由もないが。

「そう思わないか？」とあいづちを求められても「そのとおりね」とはいえない。



## おひなさまを出す

---

寒いけれど、ひのひかりがあたたかい。

ことしもまた、ひなをだす。

最初はたたみのうえ、次はテレビのうえ、ピアノと

このところは机の上である。

付属品だけがその都度変わる。

ことしはぼんぼりを出してみようかね。

3月3日には桃の花と、菜の花と、麦の穂と。



こどものときは、色紙の十二単でした。

旧の節句には、近くの山に登って、

大人は酒を、こどもは巻きずしをたべたもんです。





[おひなさまを出す](#) [2005-02-21 23:32 by guminomi2]

## ひなまつり

---

ことしは新しい雛が仲間入りをした。

「古雛や 顔はればれと 六十年」

(芥川文の作)



[ひなまつり](#) [2005-03-03 22:51 by guminomi2]



## 調律師

---

一年に一度調律師がやってくる。  
不思議な商売である。  
一年に一度客と会う。  
はるかな歳月が互いの身に流れている。  
一年分の少しの会話と、  
お茶を飲んで、  
ありがとうございました、と、別れる。  
いつまで続けることが出来るのだろうか。  
整えられた楽器は軽い音をたてる。



[調律師](#) [2005-03-10 22:50 by guminomi2]

## マチルダ

---

カンガルーは特別好きな動物じゃない。

でもいつの間にやら登場人物の一人になってしまっている。

最後までカンガルーの特性がわからないところなど、

楽しいミステリだ。

海千山千の連中が、打って出ていく。

カウンターやジャブや、ボクシングの試合のようでもあって、

わくわくしながら、セコンドを務めたりする。

読後感のとびっきりいいのもギャリコの特徴だ。

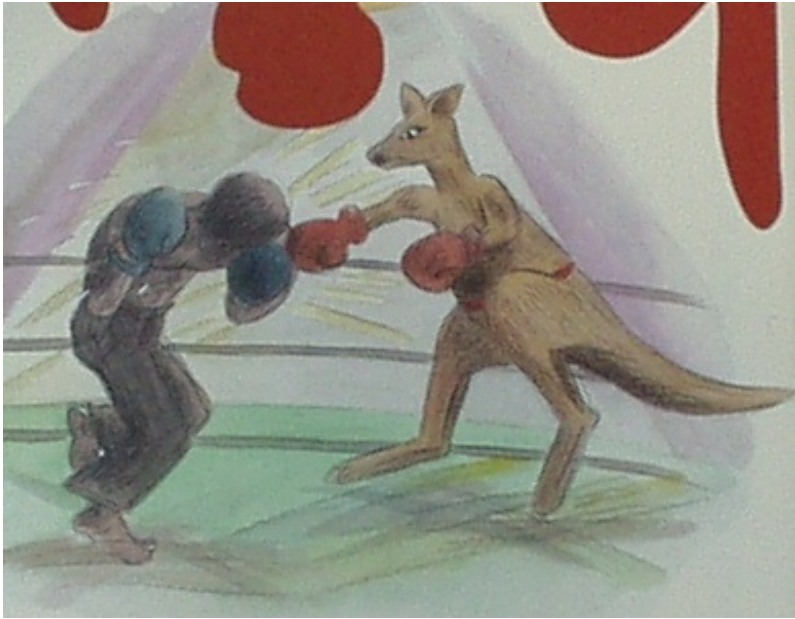
大人の童話だ。

ひとつだけちょっと不満がある。

男の書き方はさまざまだけど、女のほうはちょっとね！？

ギャリコはいい人生を生きただろうな。

思いやりとユーモアのセンスにあふれている。



[マチルダ](#) [2005-03-25 15:24 by guminomi2]



## カゼひき三昧？

---

カゼのウイルスに好きに好かれて困っている。

かなりの熱、滂沱と落ちる涙とハナ、頭と胸の血管が切れそうなセキ、  
なんでもありで、いまだにどよよ〜んとした頭痛と、セキが居残っている。

桜見物（といっても近所の）はとんでしまい、よろよろ買い物のついでに  
見ただけになってしまった。といってもこの桜がなかなかいいのである。

このあたりは桜の多いところである。

よその家の桜も桜は桜ですばらしい。



[カゼひき三昧？](#) [2005-04-11 21:39 by guminomi2]



## カメラの練習

---

Tさんの庭のぼたん桜。



わが集合住宅の入り口のつつじ。





となりのNさんの庭のはなんきよ。



わがベランダのあけび。





わがやの下の階の庭。





[カメラの練習](#) [2005-04-19 21:46 by guminomi2]



## 黄緑

---

「時は春、  
日は朝、  
朝は七時、  
片岡に露みちて、揚雲雀なのりいで、  
蝸牛枝に這い、  
神、そらに知ろしめす  
すべて世は事も無し。」

むかしならったこのブラウニングの詩をこのごろ思い出すようになった。

そのときはそれなりに、しか思わなかったが、  
このところ、ふいに心に登ってくるようになった。

直りにくいカゼをかかえて内職などをしているうちに、  
世はすでに若葉の季節になっていた。ひさしぶりに出てみると、  
あふれるばかりの黄緑の渦であった。

シュールな絵のように並び立つくすのきの若芽、風にそよぐもみじ、  
つつじやさつきのいっぱいに見開いた花々、黄色や白のタンポポ、  
やがてわたしの大好きな五月のにおいにみちみちてくるでしょう。



[黄緑](#) [2005-04-30 15:17 by guminomi2]



## 事故

---

まるで氷山のようにかくれている。  
へいぜいはみることもなく過ごしている。  
てっぺんがくずれると否応なしに中が見えてくる、  
このあかるいひかりのなかで、  
わたしはなにもせずにいる。



[事故](#) [2005-04-30 15:33 by guminomi2]



## 憲法記念日

---

空、さわやかに晴れ上がり、  
風、萌え出でた木々の若葉をゆらしています。  
つつじ、さきほこり、華やかにいろどり、  
ニセアカシアが五月のにおいをはなっています。





## 花の散歩

---

私のゴールデンウイーク。















[花の散歩](#) [2005-05-04 23:20 by guminomi2]



というものに最近入った。年寄り（怒られるかな？）のコミュニティに参加して、これがちょっと面白い。これで歳がばれてしまったね、隠すつもりは毛頭なかったけど。

ネットで遊んでいる年寄りって少ないんだよね。

若い人は基本的には好きだけど、ネット言葉にはさすがについていけなくて、その点、ころあいの人は気が楽でいいです。

顔が見えないのもいい、頭のとっぺんがちょっと見えているぐらいでちょうどいい。今のところ人が少ないから、書いたものが直ぐ見える。

小難しいコミュニティにも好きだから入っているが、いかんせんこちらに教養がないから生半可にしかわからない、ま、はいとこか！という感じ。

また、ごっそり参加者がいると、あ、めんどくせーとなる。

これからどういう風になるかわからないけれど、ま、なるようになるかな！



## 白いゆりとカスミソウと（友人の家にて）

---

「お香をたいているのね」

「・・・うち、主人なくなったのよ」

「・・・・・・・・！」

「2月」

「片付け物はね、朝するのよ」

切ないということばは

歳をとってやっと身についてくるものです。



[白いゆりとカスミソウと（友人の家にて）](#) [2005-05-11 22:40 by guminomi2]



## 「七つの人形の恋物語」

---

どんなに設定が変わっていても、ありそうもないことでも、ごくごく自然に、まるで昔から、こんなだったかのごとくはなしのなかに引き入れてしまうギャリコ。

最初は単純に人形のことかと思っていたけれど、ひとりの男と、ひとりの女のお話だったのです。読んでいくうちにひとつの絵が完成していったと思いました。

すでに出来ている2枚の絵が、重なり合って、緑の、黄色の、青の、さまざまな色が透明に、半透明にぬられ、さて！なんとも素敵な絵に！仕上がりました。

ギャリコを読んでいつも思うのは、女のひとにたいする目。

母なる大地、天使、広い海、どうしてこんな風に思えるのでしょうか！

男と女はべつの生き物だと思いますが、複雑、怪奇（！）なのです。

女の描き方には物足りないと思いますが、だからこそギャリコが好きということもあるかもしれません。

こころの底にしのびいるこの切なさはなにならむ！というところですか。



[「七つの人形の恋物語」](#) [2005-05-21 14:05 by guminomi2]



## 装うということ

---

新聞で面白い記事を見つけた。

服と言葉は似ている。人はこのふたつで「装う」

とある。わたしは服ではまったくとっていいほど

装わないほうである。それは、はずかしいから。

たとえば、キャリアウーマンふうのスーツが似合うとしても

また、似合うよ、といわれたとしても、外で働いていない、

ということに、忸怩たる思いを多少持っているものとして

そう見えるということは、とても恥ずかしいものである。

若いときは言葉でも装わなかったような気がするが、

かといって、本音で生きてきたとも思えない。

いまだに、服で装うことはないが、言葉では、

装うことをおぼえてきたのかな、と思う。それが私にとって

いいことかどうかはわからない。

話は変わるが、「生き様」という言葉をずいぶん前から

よく見たり、聞いたりすようになったが、私はこれが

嫌いである。「生き様」というと、髪振り乱して、すさまじい  
形相で前を向いて走っているのを想像してしまう。

そして同時に「死に様」を思う。

その人の「生き様」などというより「生き方」といったほうが  
おだやかでいいんじゃないかな、といつもいつも思ってしまう。

だから、私はこの言葉を使わない、というはなしである。



[装うということ](#) [2005-05-21 19:29 by guminomi2]



## ふるさと

---

小雨に濡れし。











きた道。









[ふるさと](#) [2005-05-28 20:48 by guminomi2]

## 書評欄読み

---

書評欄を読むのが最近のたのしみ。  
書評欄を読んで本を読んだ気になる。  
まるで地図を見て旅に出た気になるがごとし。

載ってる本ほとんどに興味を感じるときもあれば、  
どれもこれもいまいちのときもある。

あれもこれも欲しい本がいっぱいになって  
切り抜いておくのだが本屋に行くのが面倒で  
そのうち新しい書評欄に目がいく、その繰り返し。  
なに、たとえ買ったとて読みとおせるわけじゃない、  
やたらに遅くなってしまったのと、この目の悪さと。

ハウツーもの100冊より一編の短編小説のほうが  
好き、という私ですが。



[書評欄読み](#) [2005-06-06 22:29 by guminomi2]



## 風あり、夏の前の

---

体調絶不調のときは、MASTER KEATONを見る。

2巻が好きである。

そのまえは、ひたすらブラック・ジャックであった。

しかし、手塚治虫は悲しすぎる、彼の作品の底には  
悲しみが沈んでいるような気がする。

浦沢直樹は原作があるほうが断然好きである。

(勝鹿北星はあまり原作にタッチしていなかった、という  
説もあるが)

パイナップルARMYもしかり。

MONSTERのように浦沢直樹スパイラルに

はまり込んでしまったようなのは好きになれない。

階段を上っているつもりが実は下っている

といった感じでホラーである。



思い出したこと。  
中学2年生だったか、社会の先生に、  
「あんな、アホな戦争、」

先生は何にも言わなかった、  
すぐ後悔した、

わたしはそれから何を  
してきただろうか、





2005・7・2・NHKスペシャル 僕らは玉砕しなかった・少年少女たちのサイパン戦・を見る

---

流れのなかにはいってしまう怖さをおもう、  
流れに掉さず怖さをおもう、  
臆病者の自分をおもう、  
してこなかった自分をおもう、  
すべきことをおもう、  
臆病者でありつづけるであろう自分をおもう。



[2005・7・2・NHKスペシャル 僕らは玉砕しなかった・少年少女たちのサイパン戦・を見る](#)

[2005-07-02 22:50 by guminomi2]

## 神曲

---

何年か前から、岩波の「図書」という小さな冊子を読んでいる。  
三分の一が岩波の本の広告で、あとの三分の二に現代活躍している  
さまざまな分野の執筆人が今のこと、昔のこと、遠くのこと、近くのこと  
が、リアルタイムで書かれているのがとても面白い。  
本を読む根気がなくなってきている身にはちょうどいい。  
知らないことがいっぱい書いてあって、毎日食べるお惣菜のような、頭の  
栄養になる。一時だれていたのだけれど（読むのに）  
ここにきてまたがぜん面白くなってきた。  
小沢昭一さんの話も始まった。前にTVで昭和の歌謡曲をやっていて  
そのなかでうたっているのを聴き、真に感心してしまった。  
なんてうまいんだろう！このひとが歌手でなくてなんであろう！  
昭和をうたったらこの人が一番と決めている。  
女ではやっぱり市原悦子さんか！

さてタイトルの神曲ですが、  
5月号から河島英昭さん訳のダンテの「神曲」が始まって  
あ、読も！と思ったのがはじまりで、今度で3回目、  
最初は解説だったので、正確には「地獄篇」の2回目。  
私の頭ではわかりづらいのだけれど、とても適切な注釈がついていて  
なんとかなりそう。声に出して読むととてもいいような気がするが、  
それも面倒で、頭の中で声を出している。  
こんな面倒なものを読む気になったのも歳かな、と思ったりしている。  
それにしても  
次から次と片っ端から忘れていく頭なので、たとえ読み通せたとしても  
あとにはなんにも残ってない、ということになりそうです。





[神曲](#) [2005-07-09 13:16 by guminomi2]



夏になり、

---

去年、台風で折れた柿木の根元からこんなに大きく柿木ができてきました。実のなるにはまだまだかかりましようが。



そして隣には、山茶花を守るがごとく、よもぎがぐんぐんと。





黄色のオシロイバナが夏です。



[夏になり、](#) [2005-07-20 15:18 by guminomi2]

## 再見（ツァイチェン、と、いうのだろうか）

---

という言葉が好きです。  
さようなら、はかなし、  
再見は、また会う日まで、と、  
勝手に解釈しています。

ながい間かかっていた歯医者さんが  
なくなりました。もう10年位か。  
じりじりするような思いがします。  
ひとはいちど離れると二度と会わないものですが、  
それでも生きているのはいい。  
この世からいなくなるのはなんともせつない。  
もう、会えないんだもの。



## 再検査

---

封筒を開ける。

すーっと意識が入り込んだ気がして

やっぱり・・・二つもかかっている。

よくよく見てみれば十年前とおなじじゃないか、

12日後、CTと内視鏡をのむ。

まな板の鯉、

十年前よりかなりきつい、

TVを見る余裕はなかった。

「診たところ大丈夫でしょう」

あとは組織検査の結果待ち。





[再検査](#) [2005-07-26 22:00 by guminomi2]



## 視野検査

---

このところ検査続き。  
3年ほど前から右目緑内障、  
7月頃から進行あり。  
つい1週間くらい前から、いい左眼もあやし。  
今日検査、やっぱり。  
8月の終わりに徹底検査、  
また薬が始まるだろうね。  
文明の中でしか  
生きてゆけなくなったんだなあ、  
と、思う。



[視野検査](#) [2005-08-02 22:54 by guminomi2]

## 60年後の今日

---

2005年・8月・6日・8時15分。

本気で考えた中学時代を除いては  
本気で考えて来なかった気がする。  
そして今からは本気で考えることが  
出来るのか！



[60年後の今日](#) [2005-08-06 13:49 by guminomi2]



2005・8・9・11時2分

---

NHKスペシャル「赤い背中」を見る。

真っ赤に焼け爛れた背中の中の少年がいる。  
後遺症を背負いながら苦しみを持ちながら、  
静かな意志を語りかけてくる。  
60年の。

核廃絶。



[2005・8・9・11時2分](#) [2005-08-09 22:40 by guminomi2]

その他のものがなくなり、  
ただ、一つのものだけを見て  
それを不思議に思わなくなり、  
それは、  
今の、半ば混沌とした状態のなかでは  
むしろ快いことなのかもしれない。  
それは、ありとあらゆる情念からこころが  
解き放たれて雲ひとつない空のような  
ものなのかもしれない。  
でも、わたしは、  
それを考えるとき、身体中を締め上げられて  
全身があわ立ってくるのをおぼえる。  
それはつまるところ、  
ひとを殺すことなのだ、  
ひとを殺していいことは万にひとつもない。





## まり子さんの絵

---

まり子さんは遠い星からきたひと、  
魔法使い、  
星のかけらがパズルのように合わさって、  
天の川のようにきらきらと輝いているの。  
それが、まり子さんの作品、  
やわらかなピアノの旋律にのって、  
一本のすみきった声をつたって天まで  
のぼれ。



[まり子さんの絵](#) [2005-08-15 16:46 by guminomi2]

## 8月の新聞

---

こころ、ざわつき、かなし、せつなし。  
盆を過ぎると夏も半分いったようで、  
北の風など窓からはいると、  
へんにしーんとして  
ときおり日差しはつよいが、  
時間のながれを感じる。  
ほんとうのところを知るのはむずかしい、  
60年たって。



[8月の新聞](#) [2005-08-16 14:54 by guminomi2]



まいまいこんこ

---

私は森の中にいる。

いや、富士の樹海の中といった方がいいのかもしれない。

(樹海は行ったことはないが)

ダンテのように、先導してくれる人は誰もいない。

[まいまいこんこ](#) [2005-08-22 22:40 by guminomi2]

## 内職のとも

---

家業の内職をときどきやる。目が悪いので毎日は無理だが。

やたらややこしくてどんなベテランでも出来なさそうなものを無理にねじまげてでもつくるときは大変である。

その反対に一見大変そうでも手順を踏んでやれば最後に完成するように出来ているものはストレスがたまらない。慣れれば自然と早くなってしまう。

内職の最大のともはTVのサスペンスである。

見ながらとはいかないが、ちら見をしながら気分を集中できる。

サスペンスにもいろいろあって、

文芸もの、ご当地もの（きれいな景色や名所旧跡が出てくる）、

刑事もの、探偵もの、そして定番の主人公が出てくる。

おそろしく古いものが多くて（昼間、見るので）みんなかわいらしい。

こちらの歳を感じてしまう。

私の好きなのは、なんといってもご当地サスペンス。

きれいな景色は見られるし、謎解きもきちんとつくってあって

なによりあとくされがなくてさっぱり感がある。

人情もちゃんと出ている。

苦手なのは、文芸もの、役者も一流、つくりも凝って、

複雑怪奇、心理学的で、見終わった後、どよ〜んと

全身に疲れが残ってしまう。

これは内職がはかどらないね。

が、私はサスペンスを見るのはあまり好きではない。

内職のともというのがいちばんぴったりなのである。





[内職のとも](#) [2005-08-31 23:16 by guminomi2]

## 選挙

---

かなりな今の歳までいろいろな選挙をいちどもかかしたことがない。  
せめてもの意思表示。

ながく生きてくると、ああ、こうやって世の中って動いてゆくんだ、  
歴史って、こんな風につくられていくんだ、と、こわい思いで  
感じられてくる。意図的じゃないのか、そうなのか、  
岸辺でちょっと一服、と思っても手がとどかない、  
もっとも、あなたは手をのばそうとしているのか、と  
問われたら、こたえられない生き方をしているが。

若いころに比べると、感性が鈍くなってきた、とつくづく思う。  
歴史のシナリオってほんとに誰かが書いているのであろうか。







[選挙](#) [2005-09-12 14:47 by guminomi2]

## 夏の名残の散歩

---

子分（デジカメ）といっしょに。







[夏の名残の散歩](#) [2005-09-19 21:15 by guminomi2]

こころがきりきざまれていると、  
遠くがみえなくなってしまう。

音楽は音を楽しむと書くけれど、まさしく。  
いまは聴く気にならない。

哲学っぽいものは、こころをすこしばかり  
立て直してくれそうな気がする。

それにしても  
なにかにとらわれているときは、嗚呼。







[雑雑と](#) [2005-10-10 22:34 by guminomi2]

## 野球

---

ロッテ、快、快勝！

ロッテって昔はなんていったのかいな？

野球はいまはとんと興味がないけれど

大昔はまあまあラジオで聞いたね。

好きだったのは西鉄の稲尾、南海の杉浦、

監督は三原に、鶴岡、パ・リーグ。

阪神はフロントが嫌だったね。

実力のパ、人気のセ、と言ったもんだが

今回はそんな感じだね。

あほみたいに弱いところがあるのも

阪神ファンはいいのかな。

ストレスためんといてね。







[野球](#) [2005-10-26 22:40 by guminomi2]

## フルコース

---

ひょんなところからチケットが手に入り

れいの「第9」をききにいった。

「第9」ははじめて、そもそもオーケストラそのものをきくのも、ん十年ぶりのことか。

場所はつい最近開館した[芸文センター](#)、

なかなかシンプルな造り。このところ

ホールなどいってないので比べられないのだが

華やかでもないし、凝ってもないし、

かといってセンスがいいというほどでもない、

シンプルとしか言いようがない外と内。

「？」とおもったのは意外にトイレの狭いこと、

数を作るためにはしょうがないのだろうが

もちょっとひろめがよろしいね。

ここもやっぱりシンプル。

肝心のホール、木がふんだんに使われていて

感じがいいが、音もよかったとおもうが

これは専門家でないので本当のところは

よくわからないが、やっぱりシンプルね。

演ずるは佐渡裕率いる専属オーケストラ。

4階から見下ろしていたので顔はさっぱり

わからなかったが、

佐渡裕氏思っていたより細く感じた、背が高いから

足が長い。コンサートマスターも細い。

(まん前で見れば違うかも)

ひさしぶりにきくベートーベン、なかなかいいじゃないの、

快調にきいていたけれど、いかんせん、

交響曲は長い、長い、山あり、谷あり、丘あり、平地あり、

爆発あり、終わってみれば、ああ！

フルコースを腹いっぱい詰め込んだ気分なり、

あと十年は持ちそう。

1時間強くらいなのに倍近くに感じたね。

バッハのクラヴィーアもけっこう長いのに

長いと思わないのは家事のとも、だからかな、これを

ホールで全部きくと眠っちゃうかもね。



男の合唱はよかったかな、女いまいちね。  
ソロもいまいちで魅力なかったな。  
でも行ってよかった。たまにはフルコースも  
食べなきゃね。  
チケットくれはった、○さん、ありがとう。



## グードのパーティータ

---

グードの名前を知ったのはS・J・ローザンの  
「ピアノソナタ」

探偵のビル・スミスの弾くシューベルトが欲しかったが  
ない。おなじグードだからいいか、とおもってこれを  
手に入れた。ひさしぶりに聴いてみる。

大好きなグールドの孤独さを感じさせる  
メリハリのきいた演奏とも違って、  
なんてやわらかい、広がりのある、  
つつみこむような音楽だろう、ああ、いいな、

コーン、たった一音聴いたところでわたしのその  
音楽が好きか嫌いかが決まってしまう。

音楽に関しては究極の第一印象、派、である。



[グードのパーティータ](#) [2005-10-30 15:49 by guminomi2]



## よなっちゃんある

---

このところ、1,2週間ごとに通る駅の構内に

「au よなっちゃんある」

と、いう広告を見つけたときは「えっ！！」へ～っ。

電車の待ち時間が、気にならなかった。

この意味、すこんと解る人は和歌山の紀北で

生まれた人、または生活している人。

「au （性能よくなったよ、形もよくなったよ）よくなってるで」

もっと微妙なニュアンスがあるのだが、書きにくい。

ちなみに「よなっちゃんある」の活用形は

「よなっちゃんあら」「よなっちゃんある」

この「る」と「ら」と「ろ」の違いは

また今度。

[よなっちゃんある](#) [2005-11-08 22:47 by guminomi2]

## もみじの散歩

---

本日は快晴なり。















[もみじの散歩](#) [2005-11-11 15:11 by guminomi2]

## よなっちゃんある・続き

---

写真を撮ってきた。

よく見ると、ますますとある。

これ、いらないと思うね、  
せっかくの面白いコピーの  
間が抜ける。

よなっちゃんある、の中には  
ますます、の意味がある。







[よなっちゃんある・続き](#) [2005-11-19 22:25 by guminomi2]

## 耳鳴り

---

一週間ほど前、ふいに静かになるのを感じた。

えっ！耳鳴り！？

耳鳴りが止まって静かになったのだ。

そしてまた始まった。

耳鳴りを自覚したときである。

それから、夜中目がさめると、眠れなくなった。

昼間はいろいろな音に囲まれているから。

昔、気圧の加減で飛行機の飛ぶ音のような耳鳴りに

なったことがある。それは右耳で、耳に空気を通してなおった。

今回は左耳、耳鼻科で検査のあと、空気を通して

すっきり、夜中までは。

次の日、また耳鼻科で空気を通す、これが失敗！！

医師が違っていたのだが、荒っぽくて、痛い、不愉快、

いままでよりひどくなってしまった。

左だけだったのが、右までおかしい。

古い蛍光灯の電灯のような音がジーン、と絶えず。

食欲がなくなる。最初は夜だけだったのに

今日から昼間も。ああ、後悔！

土曜で、ひどい混みよりの医院になぜ、行った！と。

やれやれ、付き合うのか、耳鳴りと。

手ごわいなあ、今度の相手は。





[耳鳴り](#) [2005-11-19 22:48 by guminomi2]

知り合いに聞いた別の医者に行ってみた。  
また検査をやって、結果は前と同じ「異常なし」。  
ここからは前と違って、  
空気を通す必要はなし、と。  
土曜の夜の気の狂いそうな不愉快さは、  
必要のない処置をしたため、と。  
あなたの聴力は年齢より10才位若い、  
日にち薬でそのうちなおりますよ、と。  
やれやれ、医者という言葉は偉大だね。  
快晴の昼前の道を自転車こぎこぎ  
もみじを見つけながら帰ってきた。  
耳鳴りが治ったわけじゃない。





## ブランデンブルグ

---

何年かぶりに、ブランデンブルグをきく。  
いつものごとく家事をしながら。

頭の中を清新な風が吹き渡っていく。  
黄色と赤のもみじが舞い落ちていく。

カール・リヒターのミュンヘンバッハ。  
30年前のレコードで。  
アルヒーフ。  
30年前のパイオニアのプレーヤー。

きれのいい、ほどよい演奏が続いていく。  
私は2番が好き。





[ブランデンブルグ](#) [2005-11-26 14:56 by guminomi2]

今年もまた

こんな感じである。







[今年もまた](#) [2005-12-12 22:26 by guminomi2]

つかの間の雪景色

---











[つかの間の雪景色](#) [2005-12-22 14:24 by guminomi2]

## 年の瀬に大失敗

---

夜、揚げ物のあと、  
さて、使った油を捨ててしまおう、  
今年も終わりだし、けっこう何回も使っているし、  
魚を揚げたことだし。  
牛乳の空パックがある、これに入れて捨てよう、  
パックの中に紙を入れて、さて、使ったばかりの  
たぎった油を入れてしまった、入れにくかった、  
しかし、強引に入れた！とたん！！  
ポワッと音がして、パックの底抜け！  
油が流れ出す！！  
矢継ぎ早にティッシュを繰り出す！アカン！  
流れる油が多すぎる、あとは、ふきん、雑巾、  
オット！流しのゴミ捨てに蓋をしないと！！  
古いフライパンを引っ張り出して、  
もろもろの油の染みたものを投げ込む！  
てってーてきに流しをふきまくる。  
ああ！  
流しの配水管を通る油を最小限に出来たような！？

夜の夜、  
ネムイ、ネムイ、  
瞼がピクピクする、  
耳鳴りが大きくなる、  
このまま、宇宙に旅立ってしまいそうな、予感、  
たいして大きくはないが、ながい、ながい、地震の  
夢を見た、いっしょうけんめい、みずやを押さえていた。

朝、  
考えられない失敗である。  
油は完璧に冷めてから捨てていた。  
途中で止める気にならなかつたのが不思議である。  
コントロールする力が失せたのだろうか。  
歳のせいだろうか。  
事後処置だけはほとんど完璧に近く  
出来たように、  
お、も、う、が。



さて、  
せわしい年の瀬ではある。



[年の瀬に大失敗](#) [2005-12-29 14:33 by guminomi2]